

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772300497		
法人名	医療法人 仁嘉会		
事業所名	グループホーム 花南会津 1Fユニット		
所在地	福島県南会津郡南会津町大字丹藤字中川原675-6		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一人としての役割を大切にし、防災、行事など積極的におこなっています。
また、H22、3月にスプリンクラー設置完了しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員は、「できることを取り上げない手を出しすぎない、楽しい家庭作り等」という理念を日常のケアで実践している。明るい雰囲気作りを心がけており利用者は安心して生活している。
2. 管理者は職員の自主性を尊重し、質の向上に向けた意識付けを日常的に行っており、事業所のサービスの向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回全体会、ケア会で共有している	日常的に全体会、ケア会議で理念が介護支援の出発点であることを職員間で確認しながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方を行事などに招待している。避難訓練時に近所の方の協力を得ている。地区の交流会にスタッフが参加した。	事業所で行う敬老会、地域の子供のヨサコイ踊りに近隣の方を招待したり、隣接の保育所の太鼓・夏祭り、町の文化祭、祇園祭の見物等で地域との交流をしている。また、中・高校生のボランティアの受け入れ等も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ時など認知症について勉強していただいている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	防災など地域の方の意見を中心にとりまとめている	運営推進会議は定期的に開催されており、参加した委員からは積極的に意見等出されている。隣家に住む委員の方から、2F非常口の屋根の設置、避難場所の受け入れ協力などの要請がありそれらの意見を尊重し、改善に向け取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヵ月に一回の運営推進会議や認定調査の際、交流し意見交換している	事業所から広報誌を持参したり、運営推進会議や避難訓練に行政から参加協力を得て事業所の実情を伝え、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のみならず、不適切ケアについても勉強している。玄関は施錠していない	内部研修会で、職員一人ひとりが身体拘束をしないケアについて理解し、利用者を支援している。日中、玄関は開け放されており、利用者が玄関を自由に出入りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回社協担当職員が来所し、入居者の状態など話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点などない様、繰り返しわかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会への参加を呼びかけている。面会時職員はできるだけ家族と話すようにしている。	「しんごろう会」等事業所の行事をはじめ日常的な家族との関わりの中で意見・要望を聞き取っている。聞き取った意見等は会議で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会ケア会で意見交換している。改善につなげている。	全体会等で職員の意見や提案が出され、職員間で話し合い対応している。事業所内で対応が困難な場合、法人へ起案書で提出し運営に反映している。2F非常口階段の屋根や外灯の設置は、法人と連携し取り付けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、協力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ研修に参加できるよう、支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHの管理者との会議に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しずつでも安心していただけるよう話を何度も傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族に合うケアを心がける		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを持ち、家族の思いを大切にし支援していく。変化があった時は連絡する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に行い、今までのように生活できるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会があった時など本人の様子など伝え、家族の要望もお聞きしている。月一回近況をお知らせしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室にでかける。日常の会話で本人の大切な人の思いを傾聴している。買い物や受診など外出の機会をもっている	町の祇園祭・文化祭・民謡大会、馴染みの美容院、買い物、選挙等に出かけて今までの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに話ができる雰囲気大切にしている。時々ゲームなどしている。お互いに手をつないで助け合う様子が普段からみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の相談員にこれまでの生活状況などの情報を伝えと共にもその後も経過を見守っている。お盆にお参りに行った		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ニーズの把握、センター方式を利用しケアカンファで職員間で話し合い、情報共有している	日頃から利用者の話を傾聴し、意向の把握に努めている。表出の困難な方の場合、関わりの中から把握し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報以外にも日々の会話や家族との話しの中でアセスメントをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個性を尊重し、その方なりの一日を過ごして頂くことを重視し、その持つ能力の維持に努めている。センター方式を利用し、担当とケア会など情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員が話し合い作成し、本人、家族の要望に応じて、その都度計画の見直し、変更している。日常の関わりの中で本人の状況、家族の思いや意見を集約し、職員での意見交換、検討を経てサービス計画の作成にあたっている	利用者・家族の希望、利用者の身体状況、モニタリング結果等を基に職員間で検討し、介護計画(変更)を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用し、日報、個人ファイルへの記録で職員間での情報の共有、対応の検討や計画の見直しを図っている。日々のケアでの気づきを記録に残し、ケアプランの見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに合わせ、組織、職員間で検討し、サービスの見直しを速やかに実践している。インフォーマルな資源を活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のケアだけでなく、月一回町のニコニコサロンに行ったり、施設でもいも煮会に近所の人達と楽しんだり、保育所に盆踊り、運動会に参加・支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ受診にお連れしている。主治医は個別に選択していただいている。往診などの協力を得ている。家族への連絡も密に行っている	利用者・家族の希望するかかりつけ医の診療が定期的に受けられるよう職員が通院介助をしながら受診支援をしている。利用者の状況に合わせて往診も行われている。通院結果は家族へ伝え情報共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時には訪問看護師に連絡しながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や家族と相談しながら早期退院に努めている。出来る限り家族の希望に添うよう、努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と看取りにむけて繰り返し話し合いを行った。できる限り、家族の思いを尊重している。	入居時に重度化対応指針を利用者・家族へ説明し同意を得ている。利用者・家族の看取り希望があり看取り計画書を作成し関係者間で繰り返し話し合い、方針を共有しながら支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などに参加してその後チームで話し合い、意見交換しながら取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、地域との協力体制を築いている。運営推進会で地域の方、行政とマニュアルに基づきシミュレーションを行っている。	年2回の事業所全体での避難訓練と毎月の訓練シミュレーションを実施している。避難訓練には行政職員や近隣住民も参加協力が得られており、避難路確保のために隣家の方からフェンスの撤去等の申し出があった。定期的に非常食の入れ替えも実施している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人に合った会話を心がけている。言葉遣いに配慮している	プライバシー確保のための研修会を開催しており、職員は理解し実践につなげている。職員は利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合わせた声掛け等を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、話の中から希望などを聞き出している。自己決定できるよう身ぶりなどまじえ、質問を工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いはずに声かけし、本人の希望を尊重している。個別に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行ったり、季節に応じた服装の声かけなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	下ごしらえをしていただいたり、一緒に台所に入って利用者に教わりながら調理をしている。会話しながら一緒に食事をしている	食事一連の流れの中で利用者が出来る部分は、積極的に関わってもらい一緒に行っている。食事は利用者と職員が一緒に食卓を囲み楽しい雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を確認し、必要に応じて捕食している。個別に好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ確認し、不十分であればお手伝いしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのサインなど見逃さずにお連れしている	記録に基づき利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、排泄サイン等を見ながらトイレへ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり水分を多めに摂取していただいている。散歩したり、体操したりレクなどで体を動かしていただく支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて入浴していただいている。希望される方は個別に対応している	利用者の希望や体調に合わせて入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、外に出るなどの支援、夜は静かな環境づくりを心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の内容を表記した物とじてあり、確認しやすいようにしている。定期処方の際には受診報告書に記入し、変更ある時は職員間で情報を共有している。担当が服薬変更時は記録し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや買物等希望にそった支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみて農作業したり、なじみの床屋に行ったり保育所に遊びに行ったりして交流を図っている。普段から散歩、畑仕事など支援している。地域の行事(夏祭り等)に参加している。買物にお連れしている	日常的には散歩、買い物、畑仕事、事業所周りの草むしり等利用者の希望に合わせて支援している。近隣の保育所行事や地域行事に参加したり、家族の協力で外食や美容室に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、自分で持っている。その他の方は、希望により一緒に買物に行き、お金を渡して自分で支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望された時番号はプッシュして受話器を渡している。個別に対応している。(年賀状等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かる様、その月にあった壁飾りをしたり、花を飾ったりしている。窓からの自然の風、エアコン入・切をまめにし、温度を管理している。着ている服装にも気をつける。	利用者で作った季節に合わせた作品や花を共有空間に飾り、季節感が感じられるよう工夫している。テーブル、ソファ、畳スペースのこたつ等が配置され、利用者が思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる様にベンチを置いたり、ソファ・クッションを置いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	なじみの物を持ってこられ、居室に自由に置けるようにしている。好きなようにしている。	入居時に利用者・家族に馴染みの物を持参してもらうよう声掛けしている。テレビやチェスト等持ち込みのある人もいるが、持ち込みについては消極的である。	利用者にとって馴染みの物は記憶を思い出す鍵となるため、家族の協力を得ながら少しずつ増やして欲しい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方は洗濯物を自分の居室に干すなど個別に支援している		